



地域みんなが支える長寿社会

問い合わせ 長寿介護課 ☎ 24・8168

地域包括ケアシステム

2025年、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護を必要とする人が増加すると見込まれます。小松市でも、このままでは要介護等認定者数が現状の1・2倍の6450人を超えると推計されています。

それが懸念されています。そのため市では、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、健康づくりや介護予防に取り組んでいます。また、医療や介護、更に生活支援や住まいといった高齢者をサポートするサービスを開発・連携して提供する「地域包括ケアシステム」の構築を、市民共創で進めています。

地域の力

地域包括ケアシステムは、全国一律ではなく、地域の必要性に応じて築いていくものです。自分たちに合ったシステムを作る上で、特に重要なのが地域全体で助け合う「互助」です。具体的には、近所での声掛けや見守りのほか、高齢者が簡単な運動やおしゃべりなどを楽しめる「ミニデイ」や「いきいきサロン」があります。

普段から医療や介護に関する話を様々な人としますが、今回一堂に会して意見交換できたことは貴重な経験でした。市内でも、医療や介護の状況は地域によって異なります。このような協働ワークショップを地域毎に開催し、各々に合った包括ケアシステムをみんなで考えられればと思います。

地域包括支援センター

松陽・御幸第二高齢者総合相談センター
保健師 荒木裕美子さん

専門職の皆さんと同じ目線で意見交換をして、介護や医療に対する高い意識を肌身に感じて頼もしく思いました。私の周りでも一人暮らしの人が増えています。お祭りや運動会など人のつながりが強い地域なので、私も介護という切り口からコミュニティづくりに貢献できればと思います。

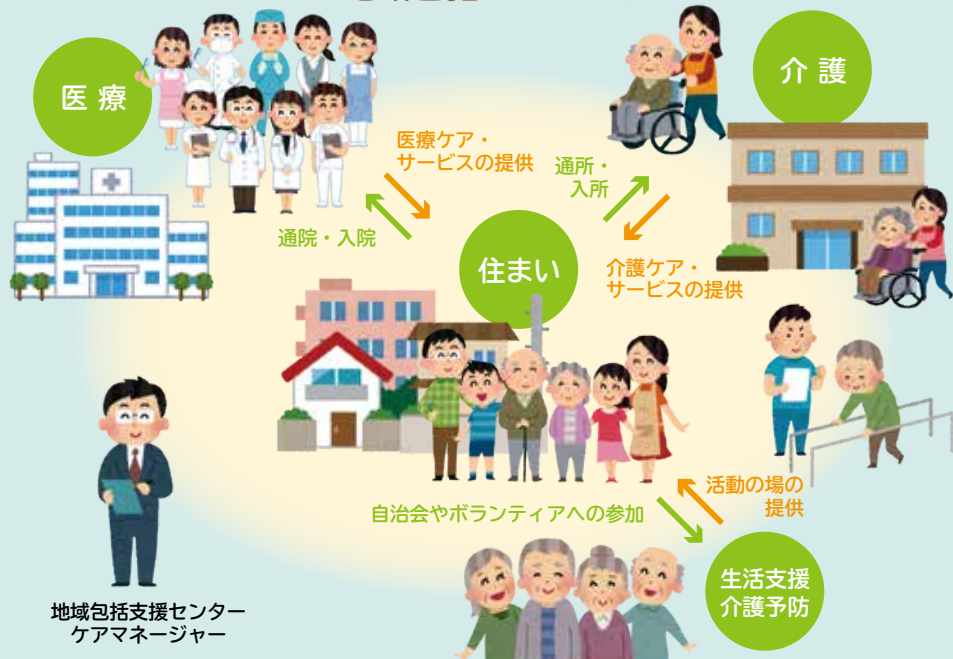
住民

仲田隆宏さん
(八日市町)

在宅医療と介護について考えました

1月27日、住民、行政、医療・介護分野の人たちが集まり、地域での医療や介護における課題を考える「市民協働ワークショップ」を初めて開催。「病院と在宅の連携」「在宅療養に対する地域の理解」などをテーマに、分野の垣根を越えて話し合いました。参加者の声を紹介します。

地域包括ケアシステム



地域包括支援センター
ケアマネジャー

▲グループごとに、テーマの問題点や解決方を検討。

在宅介護をされている家族や、そこに携わる専門職の皆さんの率直な気持ちを聞くことができ良かったです。医師会では「かかりつけ医」を持つことを勧めていますが、在宅医療や介護をする上で大切なのは本人の希望です。家族で思いを聞く機会を持ち、その希望をかかりつけ医にしっかり伝えて相談してほしいと思います。

医療

小松市医師会 会長 東野義信さん

過去に家族の介護をしたことがあります。今、自分の周りに介護が必要な人がいても、どこに相談したら良いかアドバイスすることもできません。ワークショップを通して、身近な相談窓口が高齢者総合相談センターがあることなど様々な知識を得たので、地域でも伝えたいと思います。

住民

山口早苗さん(八里台)

interview

在宅介護で医療や介護の専門家の支援が必要なことは、たくさんあります。専門家をお願いするしかないと思ってしまう。皆さんも多いと思います。

確かに特別な知識や経験を持つ専門家の応援は不可欠ですが、ここで考えてほしいのは誰のための医療や介護かということです。自分が年をとっても地域で安心して暮らすためには、どのような姿が理想で、今何をすべきかを考え、行動することが大事です。その人の生活に身近に寄り添う住民の皆さんを始め、専門職や行政が共に進める必要があります。

今回のワークショップでは、意見交換を通してお互いの理解を深めることができたのではないのでしょうか。ここで得た知識や経験をそれぞれ仲間の皆さんに伝えていただき、地域における介護の輪を広げてほしいと思います。



コーディネーター
福井大学医学部教授
井階友貴さん

**認知症ケアコミュニティ
マイスター養成講座**
市では、認知症についての理解や支援技術を持つだけでなく、実際に地域でアクションを起こせる人材「認知症ケアコミュニティマイスター」を育成する講座を開催しています。養成講座は、4月以降も開催予定です。

◎認知症アクションプラン実践発表会

マイスターたちが、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて発表します。

とき 3月17日(日)13時～16時30分

ところ 小松市民病院南館4階研修室

定員 50人程度(当日受付)

参加費 無料

